

◆経営コラム 次の市場を創造する ③④ マスダテクノ株式会社

“注目される金属加工の製品開発メーカー

▽独創的な技術を持つ開発型ベンチャーのマスダテクノ株式会社

モノを手作りする会社で「設計開発」から「製造」「塗装」までを一貫して行う金属加工の製品開発メーカーのマスダテクノ株式会社（本社・静岡県磐田市）が注目を集めている。顧客ニーズに合わせた製品をオーダーで製作する開発ベンチャー、コロナ禍対策で製作の受注も増え、オンリーワン製品づくりに“強い”という業界の評判も高まっている。“自社発信型の企業を目指す”スモールカンパニーの動向をレポートする。

▼コロナ禍対策の紫外線殺菌装置が登場

新型コロナウイルスの感染症対策で注視される製品が続々商品化され始めている。そういう状況の中で、注目を集めている金属加工の開発型ベンチャーのテクノマスダ株式会社は、強い除菌効果を発揮する紫外線UV-Cを天井に設置した装置を開発し、総発売元のコアシステムズ株式会社（本社・福岡市）と共同で開発販売に踏み切っている。

紫外線を照射し、室内の空気を効率よく除菌する装置、高効率紫外線殺菌装置「エアディフェンダー」である。装置は幅424ミリ、奥行き197ミリ、高さ120ミリのコンパクト設計で重量3.8kg、高さ2.1メートル以上のところに設置する。紫外線により約50㎡の室内空気中のウィルス・細菌を1時間で80%不活性化。室内の自然循環を利用して除菌するというもの。

この装置は人がいる場所（室内）でも安心・安全で、低コストで設置・維持が可能という、空気感染対策の製品が注目を集めている。既に、医療機関（院内感染対策）をはじめ、介護施設（感染リスク低減）、保育園・幼稚園（免疫力が未発達な子供）、食品工場（食中毒発生リスクを抑える）、コールセンター（「3蜜」が避けられない場所）、宿泊施設、一般オフィスなど、コロナ禍対策の需要が高まっている。



なぜ、コロナ禍対策の商品開発が実現できたか。マスダテクノ株式会社は、小規模の会社だが、企業理念「社員一同力を合わせ、新しい価値を生み出していきます」を掲げている。経営理念にも「社員の幸せを一番に考える」というのが社長の口ぐせでもある。リーマンショック後の、2008年9月に榎田義高氏（代表取締役）が36歳で起業した。鉄工所を経営する父親の仕事を手伝いながら、自分で会社を興したが、「正直言って、この10年は仕事は厳しく、売り上げも伸びず苦戦していましたが、専務（妻）から『やっぱり金属加工をやったほうがいい』という一言で独自性が出てきて仕事の仕方が変わりました。この2年間は、売り上げも伸び、独自の粉体塗装、オンリーワン製品を創る技術も蓄積ができました」（榎田社長）

粉体塗装の技術は大手企業の工場では行われているが、小規模の会社では少ない。粉体塗装はパウダーコーティングと呼ばれ、錆びにくく、強度が強く、環境に優しい（有機溶剤を使わないので環境に非常に良い）ので、屋外利用の製品に最適な塗装技術である。厚さは溶剤塗装の約二倍もあり、キズにも強い製品が完成している。塗装独特の匂いもないのが特徴である。

今回の「エアディフェンダー」にも使われ、レッドからブルーの6種類のカラー製品である。製品のカラーリングはオリジナルの製品に対応できるようになっている。

▼コロナ旋風はまだ落ち着かず

高効率紫外線殺菌装置が生まれる背景には、独創的なモノづくりのマสดテクノ株式会社が開発メーカーとして、福岡市に本拠地を置くコアシステムズ株式会社が総発売元（製品のメーカー）として、共同開発が実現しているからである。コアシステムズ株式会社は、従来、LAN工事から情報インフラ構築（ハードウェアの販売からネットワーク設定など）までを福岡市内を商圏に事業展開してきた会社である。

商売はモノづくり、モノ売り、人づくりが基本中の基本である。モノづくりに強いマสดテクノ株式会社と販売に強いコアシステムズ株式会社が提携して事業展開していることである。

コアシステムズ株式会社の東京営業所所長の金子豊氏は「高効率の紫外線殺菌装置が実現するまで梶田義高社長と何度も試作、話し合いを繰り返し製品開発ができたという経緯があります。製品開発では、低コスト、高効率のランプ照射、高強度のボディなど、従来の製品を超えるものが仕上がっています。特に、コーポレートカラーに合わせたカスタマイズが可能な製品になっています」と語ってくれた。

殺菌装置の新製品の販売はどのような戦略を展開しているのだろうか。コロナ感染症の対策商品の要の製品の 하나가殺菌装置である。新型コロナウイルス感染対策に係る補助金の動きである。

丸山裕之氏（コアシステムズ株式会社の執行役員・統括営業部長）は「間違いなく、追い風にはなっています。医療機関・薬局などの院内感染拡大を防ぐための対策製品として注目しています。ただし、補助金があるから取り組むというよりも、現実には、院内感染の防御についての関心の高さは日増しに高くなっています。そのほか、補助金の対象になっていない所でも、導入している施設も徐々に増えています」と語る。

ポストコロナ、脱コロナ、アフターコロナなど、コロナ旋風がまだまだ弱まっていない。いつ落ち着くのか、という庶民の声、専門家の意見など、様子を見ながら対策の手を打っていかねばならないのが現況である。

▼モノづくりのアウトソーシングカンパニーを目指す

同社の特徴の一つが、図面設計から開発、製造塗装までを一貫して行うことができることである。梶田社長は「わが社は『困ったときのマスダテクノ』『とりあえずマスダテクノに聞いてみよう』といわれるような会社を目指しています。特注品の試作からオリジナル製品に強いというのが強みです。初めての問い合わせは『図面がないけど』『簡単な部品一個で悪いけど』といったことは日常茶飯事です」と語る。

同社が注目されているのが建設・建築の業界である。特殊の粉体塗装を活用した受注商品を製作しているからだ。業界初の「パズル階段」を誕生させている。パズル階段は現場で組み立てをして施工するため、狭い現場でも搬入することが可能である。オーダーメイドの階段からテーブル、手すりなど、独特なものが多い。ベースに粉体塗装の技術があるからだ。

マスダテクノ株式会社が独創的な技術集団ということがわかる製品づくりもある。ロードバイク用の小型軽量の携帯スタンド「POCKETSTAND」を自社開発し、米国へ輸出している。コロナ禍対策の製品として、携帯型非接触ツール「フレンディーラ」(1本 2480円、税込み)や容器に触れることなく手指が消毒できる足踏み式「フンディーラ」(1万9800円、税抜き)など、マスダテクノだから製作できる製品を世の中に出している。

梶田義高社長は「社員の幸せを一番に考えること。常に新しいことに挑戦することが大切です。モノづくりに対しては真剣でありたい、と願っています。私たちの会社がある静岡県遠州地域は様々なモノづくりが盛んな地域です。わが社は子供向けの体験を、小学生、中学生、高校生向けに、半日かけて職場体験を実施しています。モノづくりには楽しいことがいっぱいあることを知ってほしいのが狙いです」と語る。

同社は下請け企業ではなく、独自の技術を活用したアウトソーシング企業を目指している。大量のモノづくりではなく、社員が幸せを感じるモノづくりをするために、足元を固める事業展開に徹していこうとしている。

健康産業、建設業界、自動車業界など、大手企業の試作から手始めてモノづくりのエキスパート企業に位置を確立したいという同社の動向から目が離せないベンチャーカンパニーである。



「エアディフェンダー」



金属加工の作業をする社員

【注目すべきポイント】

- ① 技術力の高い独創的な金属加工の開発メーカー
- ② 特殊な粉体塗装と顧客ニーズに合わせたモノづくりに強い
- ③ 「特注品の試作」「オリジナル製品」の技術力が他社との差別化

「金属を使ったモノづくりがしたい」と鉄工所を営む父親の背中見て育った梶田義高氏（代表取締役）が34歳で独立、「困ったときのマスダテクノ」を誇りに、図面設計から製造、塗装、製品づくりを一貫して行うスモールだが、頼りにされる開発ベンチャーである。着実なモノづくりを展開し、コロナ禍対策の製品開発にますます需要が高まっている会社である。最新が高効率紫外線細菌装置「エアディフェンダー」をリーズナブルなコストで開発した。

【会社概要】

社 名： マスダテクノ株式会社

代 表 者： 梶田義高

所 在 地： 〒438-0831

静岡県磐田市上新屋666

TEL 0538-74-3120

事業内容： 塗装治具事業（塗装用ハンガーを製作）、住宅エクステリア事業（店舗用什器からインテリア部品まで）、新規開発事業（ロードバイク用の小型軽量スタンド）などの開発

年 商： 未公開

企業HP： <http://www.masuda-techno.co.jp>